萬日記帳

[illegible]

[illegible]

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一 姫君様　御二方様
松茸狩御成ニ付村方ゟ
御飯上ル
掃除人拾弐人
志めし
赤飯米　壱斗
右御返礼ト 参同 五百文
同 三百文

御二方様ゟ取替證文

天保七年申九月

年行事
八左衛門
藤之助

一　荻野様ゟ松茸狩御頼ニ付
八月廿六日ゟ右様懐狩ニ付久保治郎
源蔵と申人村方ニ而茸山之
荻野様ゟ無之松茸狩懐狩村
而来往奥木野村之内ニ而
茸狩ニ而茸又相用料として無之村
私村方ゟ一切松茸山立入

先規清村当宮様之時相中ニ
節ニ御座候一統相談之上会所ニ而
以頼無御座候ニ付御側ニ而ニ付
宜敷取計節ニ付相一統常ニ而
夜村惣村ニ而遣置候ニ付
村方ニ而代々ニ付御村惣代諸者
御座候ニ付荻野様ニ御時入置候
相改置候ニ付無御座候九月十六日

同月十六日以前ニ而右衛門惣村より
遣置候ニ付無構ニ而荻野様
御用向ニ付ニ而遣候ニ付右衛門ニ而
右衛門殿ニ而村方松葉御当ニ
持遣ニ付手前ニ而右衛門ニ付
山松葉取之候ニ付惣村ニ而人
年行事入ニ付御座候 如斯御座候
荻野様御当ニ而松葉持遣ニ付

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

組頭之御役ニ付差上候
右ハ角田村ゟ別紙之通定
宜敷首尾仕候

天保七年申九月

年行事 八平治

了戒 藤之助

一御所様・御若様・尾張様ニ
御嫁入ニ付同村尾州様御内
女中様并御役人中
御所様ニ九月十二日ニ御上京
ニ付候ニ付同九日ニ村方御山ニ罷越
御使ニ付候ニ付別ニ当時別人足
ニ付村ニ年行事二人出ニ下ニ而

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

御赦免ニ付御勤上ヶ相済
志めト致シ勤上仕候御遊礼
平庄屋江差上候ハ、御茶屋江
酒肴料金壱両弐歩下ヶ被下候
候御代官御出被成候ニ付右様
拝受御悦候事ニ御座候
以上

天保七年閏九月十日
年行事
八十次郎
亀之助

一中山様ゟ村方江御役人中
御出被為成候ニ付御泊り之儀ニ付
新来御殿御普請所屋根葺
替向之板ぶきニ而候処此節
之大風ニ而屋根損候ニ付見分
方之儀ニ付願村方ゟ金子御貸渡
被下候様相願候処又々右屋郎江

村方ゟ引合申上候處ぶきニ付御座候ニ付
被下候様相願候而一統御指図
之上宜敷取計被下候様願上候
申上村方之者共相談仕候
引合候而来村方ニ而御請申上
方之儀ニ付御座候間此段
別紙書付を以申上候 様御願
役人元ゟ差上申候

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

天保七年申九月廿二日
年行事
平治郎
彦之助

覚

一金百疋　但し年行事安人江
右ハ先月御山江今出川御殿
女中向井米谷両村方より
いたし候御挨拶差下候而
此村本年〻ト此度

九月十一日　御代官方

木野村
年行事中

一村方番人給之儀是迄毎日食米
銀ニ年中弐百目宛之積ニ而
出来候処申年迄ニ村方茂年々ニ而
相改候是迄撥約ニ付以後毎日少々之
食米計ニ而正月元日より継ニ
是迄之通相改申候以上

天保七年申九月

年行司

八十治郎

義之助

一姫君様御誕生ニ付
九月十三日年行司両人
御祝ニ上ル事　御神酒上ル
猪鯛銭尾先例之通り御留
右八同様ニ而御神酒上ル事
御神酒料年々宮司ニ当事
同様銀拾匁也右上御渡し

天保七年申九月廿三日

年行事
八十治郎
要之助

御年銭中差上候

姫君様御誕生ニ付御目出度

出来ニ付六日御祝儀被遊御治定

対(?)御通達諸所ニ而

御誕生ニ付日

刀指候人

拝領着用

麻上下着用

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

未ノ六月　力指七人
右間敷
右当月当番より申来り差紙御下
以前之觸を以人足差出申入候段
御済定奉又之出張申上候
以上

十二月　御代官方

木野村
年行事中

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 － 5 6

右之通出紙漉村方
年行事并惣人源治郎藤之助
三右衛門右衛門惣人甚兵衛より相渡
申候

同十六日年行事并惣人三右衛門
金八両預り藤助小三郎源治郎平兵衛藤之助
右七人え相渡申候

一酉年三月五日米壱石
右代銀百弐拾匁也
但シ宮蔵之支配右当[illegible]遣
少支

天保八年酉三月

一同年巳月総郷御年貢通
米壱石弐斗　割合壱斗八升ニ付
三斗入拾八俵ニ而　米相場
百弐拾匁之代銀拾弐匁
右掛り分三貫五分文
天保八ノ年酉巳月

当人差遣可申御願流有之候而未
拝借願致候御所々上町役人
来ル十二月三日迄書付差出
拝見候而番頭遣持参可申上候之旨申渡
及返事候ニ付別紙得与申上候
其後一町差入接ニ而可相成候ニ付
右之通り入置申候也　断

調所役所等中之頃違犯
此ノ分承知之事
致役所江可申差遣候之
〻
神拝致役所

〻
右之村ゟ巳年十二月
以十分之被神拝ニ奉差上候
書付ニ持参之事
天保乙ニ丙年巳月

一八

一 稼穀〆三之 但村持ゟ稗
五十五石余 此代金弐両弐分 候
代金四両三分 永三百三十文 此銀
村方分弐三五四分七厘七毛 太郎方
三五分七厘七毛 代金壱両壱分
渡世之儀分弐分九厘 篠原分
壱分九厘 残之通之 割合

天保八酉年四月十七日
　　　年行司
　　　　八十治郎
　　　最寄之 助

一安井様ゟ四年寅ノ月ゟ拂付
料ト銀子五匁村ニゟ壱ヶ月
六ヶ月ニ〆弐分利足ニ而御渡
五〆目此方御借銭借用仕候ニ付
拾匁ツヽ割合也
四諸雑用ニ付 此儀ニ而
銀弐匁

一東寺様ニ 従銀子
壱〆目百目也 右壱分九匁ツヽ
割合 四諸雑用ニ付
三匁ツヽ 銀弐匁

右之通當月於村中三ケ所ニ
目安箱封付相添申候
所村末ニ右之書面ニ掛置
いつれも新麦當月ニ拾日ゟ
一 作付高並之義者畑方當所

前書之通御座候
天保八年酉五月十七日

一　酉年十八月廿四日ゟ七月
十二月十三日時節之米壱表
之有之ニ付也村役人ゟ相願之
壱貫文ニ而壱年ニ露拂ニ
取村金拾場　露拾九斗ゟ
石米壱斗ニ付金壱歩ニ下ツヽや

閏七月廿一日ニ至米追々下
直ニ相成百文ニ付白米四合ツヽ
麦ハ百文　餅ハ五合位之直段
菜種百文

来銭百文

天保八年酉七月　八小沢村

相記之

木野愛宕神社所蔵史料
箱４－５６

一 武蔵国清瀬小松原平左衛門
郡溝村役人ゟ御下知二而
中より金子百疋合力ニ出
候事

天保八年酉七月廿八日

一

年行事
八十治郎
藤之助

一 新清御所様江戸御下向ニ付
先例之通御献上ニ付落合村
小野村生鯛一折代銀七匁宛
急度治定候ニ而包ニ御納め
割 同様書付御代官様ニ而
継世右ニ而右之通

生鯛 一折
木野村
年行事

右之通八朔御礼献上
候ニ而御献上仕候処七拾文
年行事太夫下座候無之御礼
八十文ニ而右三人ニ而勤申候 以上

天保八年酉八月朔日

一 同八月廿日
御用留達ニ付村役人今貝倉和
年行事太郎兵衛 熊次郎 八十次郎
金八郎 新之助 勢次郎 政次郎
喜之助 茂之助 直次郎

右拾人御前へ御書附頂戴
致候
同人年行事役 御用日々安閑ニ而
相勤申上候

一 同十九日
御新様関東御下向ニ付
十三日夜八ツ時より人足二而 村役

拾人本郷助之丞　右名前之通
年行兵衛　太平右衛門　鉄治郎
三左衛門　猪治郎　勇治郎
直治郎　亀之助　惣之助
又治郎　源治郎
〆拾人

一村方庄屋并組頭萩野様へ
御尋ニ付書付差上之通
就御尋乍恐口上書

一今般寺社町人仕之候御領
地頭百姓御尋寺
文禄以来年来年貢儀分明越候
當村庄屋九兵衛拾年当庄屋之通

御新田ゟ再願仕候共少も願
無御座候ニ付右之段御尋ニ付乍恐
申上候以上

天保八年酉九月

越前国丹生郡木野村
庄屋 又次郎
年寄 十右衛門

荻野精之助様

一御所様関東ゟ御下向ニ付
来ル寅年十月十日御能被下候
村々所々上下ニ而来候ニ付
御触之旨先例之通
するめ三連　一折
御献上仕候丹云閣ニ而遣候
外ニ五百文

別年行事太夫在京　熊次郎
右之人ゟ御奉行所ニ而御酒
頂戴仕候
右之者先例之通
年行事　大夫在京　熊次郎
右之者　浅吉次郎　勇次郎
藤之助　岩之助
藤次郎　勝之助
茂兵衛　又次郎　利次郎

源次郎　養子　肥
右藤三人　本家ニ養子
加之前右三人大津村ニ嫁
別　八十次郎　本家ニ養子
右之通ニ而　同国　本家ニ養子

天保八酉年十月十日
寺村役　大庄屋
熊次郎

一御所様関東ゟ御帰洛ニ付
為御祝ト十一月十一日ニ
金子弐百疋村方ゟ被下
差支右者村方十二日一統休ニ
己ゟ氏神様ゟ御酒被下一統
頂戴八百文

天保八年酉十一月
年行事
鍵次郎
木下右衛門

一 愛宕様弥殿屋根ゆいかえ
代銀六拾三匁弐分入用
檜皮屋
　　藤兵衛

天保九年戌二月
年行司
大上屋
　　熊次郎

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

一　飛ヶ度村百姓茂兵衛廉小谷村
百姓庄右衛門悴林次郎事弥平
盛發義長蔵与申者養子ニ貰
請候ニ付右祝金子百文
御寄附仕候

天保九年戌三月頃
年行司
大谷村藤八
熊次郎

木野愛宕神社所蔵史料
箱４－５６

一 當度村宮秋八幡様え御公
新京村百性吉右衛門娘いし此者
當年貳拾七才末成者嫁ニ出候
年々別當為祝金子百文宛差上
差出候事

天保九年戌三月
年行事
大和屋
熊次郎

一 飛度村肴来信之上修為候
儀来催少々致新合加入以下
以為一統祝祈剣和合式三月
十三日下嫁式森坂本屋之于照
来亀以上

天保九年戌三月
年行司
大谷弟左膳
熊次郎

以上

大覚寺様灌頂ニ御参詣ニ付

罷越候ニ参り候

戌九月十五日　二人ニ而両村ゟ

今三兵衛　若年　吉左衛門

彦兵衛　若年　長左衛門

以上

若年　若左衛門

若年　権左衛門

御出迎として御料理ニ而

小言実ニ而
右四人江
せゆべ
権算　平
長芋
たすけ
汁白出て
さらふ
右ハ成人江

弐月廿
金弐年
岩し結

御殿者様　冥慮ニ依而御寄
御寶算長ニ新多作物ら成在ニ付
依之れとして伊勢御奉掟

御蔵郡ニは村々一統也合て
并諸老少男女中々満日ニて
神前一統祝於席ニ来
人是気西様[illegible]中[illegible]

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

天保九年戌九月廿九日

年行事
金兵衛
岩之丞

右村々無尽中人々
来ル十六日組合村々
御坂所へ参会以当番ニ而
御触書出ニ付右組限無遅滞
致持参可被成候

荻野猿橋宿
右村々
名主年寄中

右御廻状村継早々順達

御定書

五合弐拾七才

一 米銀七拾五匁八分

但合御役取立

内銀弐拾五匁弐分八厘

此米代銀五拾三匁弐分九厘

内

銀弐拾弐匁六分四厘九毛

百姓 九兵衛

[illegible]

同 拾匁九分八厘四毛 同 次右衛門

同 三匁二分九厘二毛 同 与左衛門

同 八匁四分四厘四毛 同 仁右衛門

同 拾三匁三分四厘 同 茂兵衛

同 三匁二分八厘七毛 同 喜次郎

一 壱石六斗宛　　一 清太夫

一 拾石七斗六升五合宛　　一 金三郎

一 四石九斗五合宛　　一 藤助

一 四石九斗五合宛　　一 源三郎

一 三石三斗六升宛　　一 吉兵衛

一 総石高[illegible]六升宛

此金[illegible]両

代[illegible]六毛

但[illegible]

右は地所[illegible]割合[illegible]御役[illegible]候

[illegible]御[illegible]出[illegible]御下[illegible]

[illegible]御[illegible]出[illegible]

天保十寅年八月

播州多可郡木野村

年寄　喜兵衛

庄屋　惣助

御奉行様

乍恐奉願上口上書

一 先年第三弟ニ而中者私方ニ而養子
世話仕候ニ付、其後於ニ付
北多可郡ニ而御奉行様へ長藏
離縁仕候處、提出村
又先年ニ而中者世話ニ而
九條様ニ而御座候ニ付私
姉妹共ト離縁仕候ニ付又出来

本願山階先般改築中入山愛宕
当社之儀ニ付云々 混乱ニ候
中々古義ヲ以修覆ニ不及山寺
庵ニ住山職之者補任ニ本殿山配別
又以昨年八月ニ至り度
社参山職之 御継目ニ 仰年参
殊ニ当
被下山ト 雖然 ニ仰付
佐合ニ

恐惶謹言

天保十年亥十二月
十三日
福王寺 治幸
新熊野 兼悉 権大夫
兼行長文
兼範 判
某 判

安井浦右京大進様
木村兵庫允様

右惣百姓願之口上書

一 松嶋いさト申者
先年ゟ相續之義ニ付此寺号絶
住職御願申上候得共御聞済
本末難立付合之寺跡ニ付寺号
旧跡村役人共及見ト申寺号絶

御免之儀相願候趣ニ候得共
寺ニ願書御願書上候付無
御憐愍之御沙汰ニ御赦免
被為成下候ハゝ難有仕合
可奉存候 以上

天保十年亥十二月
十三日
願主 書判
親類惣代
組頭

年行事
亀之助
甚助

安平治右京大進様
木村多庫允様

村芳浄殿御書
葉文之丈

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

惣百姓上ケ書

一村方氏神祢宜殿之座格之儀
之外及難渋候ニ付再度此度
聴届被成下候様
之上御沙汰次第 行事御様子
惣百姓上ケ書以上 貴答相

天保十一年子三月
右之通
木野村
年行事
嘉之助
甚助

安井治右衛門様
大進様
木村兵庫允様

縁組手證文之事

一 此度當州大山講在東光坊貴殿御世話ニ而
当御村二平次殿二女私娘縁組仕候人ニ
貰請申處実正ニ御座候若此者ニ付何方ゟ茂差構無御座候
其一切無御座候 何事ニ而も此段御承知之上御縁組
容易ニ而 成下ニて縁組仕候處相違無之候

天保十一年
子ノ十月廿五日

下野村
新人 惣治郎

一家 吉右衛門
同 金八郎
年寄 忠兵衛
五郎物
組頭 物

安中治右京大進様
右村兵庫允様

右惣百姓之口上書

一村方氏神社殿之儀根元ニ外及
破損候ニ付無處此元遣等仕度
爲　何卒御憐愍之御沙汰
候而　成下候様右惣百姓之以上

木野村
年寄

天保十一年
子三月十六日
　　　惣代　印
　　　庄屋　印

安井治右京大進様
木村兵庫包様

牧野備後守殿江御預ケ入置候来ル寅年迄御預
順渡五日難斗御礼例年之取計候処ニ付
而有之候当年ニ見合候得共御預ケ入置候
義ニ付右当年鋳書目割之通申渡候條
諸相可申通事

八月六日

右之通寄附相江
御当地村中鋳ニ候以上

萩野膳之助

宗田日向守殿寺社町奉行衆江御渡今九六日
上京より為差出候義申渡候之事

子七月廿六日

右之通申通シ
諸相江
御当寺中鋳ニ候以上

萩野膳之助

米田日向守殿江出礼日限之覚

一 未九月十一日　　町礼

一 同　十九日　　諸寺社

一 同　廿九日　　町礼
　但地役之

前々出礼出来候分右日限鈴木町分又ハ門送
之内出礼ニ相揃可申候事

従之日向守御役所へ以前出礼之義例年之
無ク御座候
右九月四日

右之通申来候ニ付惣町分年寄中へ申聞候也

酉八月四日

葺荘勝之助

甚次郎
又次郎

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

御菜園御菜請物来候儀見分之上

御安平次様
蔭山様

御田地植付候所両作植付候所高請

新田料一俵
俵ニ而御座候

子八月廿六日

弁乃丞
惣次郎
又次郎

一 御新様より尾州様ニ御入輿ニ付
姫君御荒院様御遊去ニ付未ノ二月ゟ
八月迄七月ニ而御菜請候事
右壱両四月ゟ御新来迄ノ分ニ而
御隠居ニ而も右様御中ニ而事
弁乃丞
子十月六日
御当屋
木村様

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

仙洞御所　御修理　御用ニ付　候ハゝ
日数之儀者　追而可申触候　材木中出荷
自分材木之儀ハ　其国々木ヨリ　可申入候
其市場町　可申触候也
上方筋之者共　送来候材木　日数二十日ヲ過
候ハゝ　可申事
右之趣　相触候上ハ　役所ニ相[illegible]触候之

酉十二月十九日

萩野勝之助

右御触書之趣承知仕候　然上者村方
[illegible]

年寄　又次郎
[illegible]次郎

木野村

仙洞御所 山洞御所崩御ニ付
普請鳴物停止ニ而 候也
各〻一統相慎可申事
但日数之義者追而御沙汰可有
之事

火之用心猶更入念可申事

十一月廿一日

御代官方

御請書
御書面之趣承知奉畏候以上

年行事

私領中先年ゟ猟之儀同前御留之候
菱喰鴈鴨停止之候
菱喰之　十月ゟ御免
鴫之　十五日ゟ御免
鶴猟之　十九日限り
御殿ニ者業献上来ル九日ゟ

右之趣承知ニ
来ル村々御札宿正月四日中迄
右之趣為承知之
丑正月十五日
御代官
木野村
年寄
善中

御届書

一 故院様崩御去ル十一月二十日ゟ鳴物停止ニ付
野々宮社頭注連之義前々鳴物停止之節
者　御停止之通相済来候御停止中ニ而当十二月
十二月二日　御停止御免被仰出候ニ付鳴
操注連縄取除不申候　御停止
之段申上候然ル処注連縄取除キ申候
此段御届申上候以上

天保十二丑年
正月廿日

野々宮神主代
木野村
庄屋平兵衛

同郡
八新村
庄屋□兵衛

□□御役所
御手附様

故院御謚号
光格天皇
宣下被為在候旨従中従所ニ而承知有之候や
丑閏正月廿八日

藤野勝之助

乍恐奉願上口上書

一 私儀播枝村 新之丞娘その当年
二十才ニ相成候者 私伜徳之助妻ニ貰
請度義先方ニ而一同承知之旨申候ニ付
一切差障無之候一御座候御聞済
御許容被為 成下候ハヽ難有仕合奉存候
以上

天保十二丑年
閏正月十七日

木野村
願人　和三郎
寺家　孝兵衛
年寄　又次郎
根次郎

安楽坊右京大進様
木村兵庫允様
荒浪山路曽様

愛宕権現宮様祭礼九月廿四日ニ付
湯之鳴物差留停止候
御不承知ニ御座候
催有之候得共御伺済
可被下候

御代官方

十月十二日
木野村　[illegible]

一御通之者ゟ申文 両人 之太夫罷参
一口上御相談之節 勝手ニ而 浄冊
言聞かせ御用之事 書状 文 御返書
相済候ニ付 御様子 並 捧状 候
一其節ニ而 銭之事 被下候
其後 見合候
以上

以書付申上候 御上様 廿八日
御祈禱道中 宿所 先様 返 御用
申上候 帯刀人 七人
同 麻上下 四人 用事
弐人 羽織袴 用事
一右者 座列之様子 御分 御儀ハ 此
無相違 京大坂
候 以上
藤 御 帳面

一、右当日朝より愛宕山江参詣
村役人共 御神酒 御備物
右之儀首尾能 相勤申候 以上
天保拾亥歳
十月吉日
名主
[illegible]
[illegible]

一、岩倉村於愛宕山ニ村々惣代
御祭礼之節 村役人并村々惣代
酒肴被下 猶又 神前ニ而 御酒
頂戴仕候 尤 御初穂差上
申候 御神酒并 御肴
御供之村々へ 被下 御膳料
例之通 差出 候 一統
相済候 尤 村々惣代 相勤

一 村方之儀ハ前々ゟ荒所并田畑惣而
東西ニ者ハ谷地ニ而舟場とも
笹林ニ荒レ候処当村御林御用木様
ニ而御道普請之役有之候付往還筋之
出来之節ハ聞合申上候処御引之
可有之何年御用木出来候様申
上候而御用木出来候迄

右寛政四年

天保拾四年七月写之

奉行度
金八
岩越

然ル上者村方ニ而寄合仕一同相談
之御座候ニ付外望之者ニ入
札仕候代銀ハ当月ニ取極落札
年貢之節所々村方江相渡落札
人之方ニ相渡安堵作徳之内候、然
者村ニ而相続いたし作徳来ル
人之所ニ入御座候事而ハ村方居宅

其ニ付同所ニ開発ニ相成之上ニ
而ハ村方之者へ入札仕候
代銀当月ニ落札仕候ハ何年限
年貢等御座候ハ、村方
御年貢之儀ハ村方ニ相勤候村へ
諸方之者ニ銀子仕候得者御奉行
任神事ニ而候者御役場

此築名ヲ出願ヲ以 村方長久ヲ願
之處金弥 村方相談之上ハ即村々
帰り之ハ遠く其上ニ而 猶御相談
在候事候 何年之儀 此出雲御趣
候而之ハ 村方流 可相成義も
之共ニ而 安全 様 此存念趣旨
趣之ハ 願書之ハ 願書一巻共差出

御寸掛合申上候へ共 何分願文ヲ
書写存念之願文曰
追而 其願之儀書
一 村方庄屋家ニ而家ハ 村役場とも兼
本家而御役所 御用向ニ而ハ名前 所
御殿様へ御差出之上 御札提出
代限 御用ニ相成 右銀子ニ而御祈

妙円坪へ付置候内　御下知様并
預り置候年預り遣ス御沙汰之内、
御下知并村々流罪被仰付候
以上
天保拾四
巳ノ霜月
大西定右衛門
村惣代　宗七郎
黒沢
安喜右京大進様
荒木帰貴様

右之趣意ハ預り置候処、早速以御沙汰
先役年中以村々流ニ取計
に取御下知しし　安喜様へ今三通
荒木様ヘ今返之処　今ニ左衛門
下遣し置御沙汰ニ仕
御文附属并外人ニハ御破御沙汰御座候
其外雨ニ焼の経文も無く憂儀

依而後日之ため證文如件

永代売渡證文之事

一 村高之内 右之者字ハ所持仕

右所ニ而私所持之内 南ハ限

の土地 此度村方江売渡し代銀

相渡候所実正也 売渡シ申所

永々売渡申所実正也

之上ハ此證文ニ而 後々迄

違乱 村役一言之申分無御座候

為後日仍而證文如件

天保十二年 村方

丑ノ霜月 庄屋

源左衛門殿

右之通り永代売渡シ銀子 受取申候

役前之儀ハ備前九月中ゟ御利用之旨
申付置候頭人共ニ御預ケ申候
備申入ハ村方ニ而請取頭ニ可申事

蔵行司
金八良
岩之助

渡守願之覚

一 此度藤原村高橋嘉太夫様伜六之亟ナ
九才ニ而安養寺様ニ相添寺号相願候
差上申候御渡之儀一切
寺院方御構無之
御法度之儀御申付ケ候様御願
奉願上候

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

乍恐奉願上口上書

一 当社様御神体之儀ハ往古より伝来之 當社浅
書付有之候処 当年迄相成候ニ付 破損
尊像御修覆 一切 難有 何卒御
憐愍を
御修覆被為 仰付被下候ハヽ 難有仕合
奉存候

天保十三寅年
六月廿五日

願主 三左衛門
一宮 平右衛門
手作 金兵衛
宮 兵助

豊後大進様
蔵人将監様

天保十三年
寅六月廿六日
豊後守殿ゟ御達之様
左之通書付

願主
善蔵
一 組頭
惣次郎
年寄
金蔵
同
宗兵衛

罷出神主共入用ニ付
村方ニ而相渡可申〆候ニ付
勘定奉行 調之上申渡
相続之儀有之候ニ付此段
右之趣可申付候

壱ツ　一　壱升入樽　壱荷

扇子

一　帯　壱り

柏　壱本

梅子　壱本

一　手拭　白　壱ツ

右之分へ　壱り

中平　壱り

一　出来　弐足

ぞうり　壱足

一　しま　壱枚

右之品相渡し申候

寅（?）ニ月廿八日

山田子の平　市兵衛殿

祝儀しなく

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

右之振合為念申置候

天保之亥 四月

年寄 [illegible]

嶋之郷 名主 [illegible]

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

蔵行事

御銀定之事

一　村方年行事御銀ト申ハ壱ヶ年ニ
銀百弐拾目ツヽ宛へ出蔵置候
當村方一統万事為入高多有

之候處當卯八月ゟ御銀借候間相止
壱ヶ年ニ万事ツヽ宛へ者十月十
五日ニ出蔵可申候　右年行事ゟ
之宛も無之ゟ来御役ト用助多
是迄御銀ト借へ相成候年加村方
一統之申而之宛蔵行事壱人
一統ゟ壱人ツヽ添加へ用向為済

右勤方請申候事

一御船様御用向ニ付所々年行事ゟ
替り一統ニ而壱人ツヽ順番ニ御案内可
仕候、且又右仕分ケ申付候節ハ都而
右之者共ゟ遣シ集会之上相定候
儀ニ御座候事

天保十四年
卯八月

年行事
亀次良
宗[illegible]

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

仕法書[illegible]

見廻村々諸事[illegible]内[illegible]

廻日[illegible]銭[illegible]附共[illegible]

村々[illegible]願[illegible]附[illegible]酒小宴[illegible]

小前[illegible]奉納[illegible]

[illegible]酒之也[illegible]

[illegible]

延[illegible]古来納[illegible]年限

立[illegible]是又[illegible]

体[illegible]

神[illegible]御[illegible]

[illegible]

三次十三歳

寅八月

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 − 56
KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White Brown Black

忠作氏家　蔵行事

郡保卿　喜兵衛

年頭御礼之節　御祈祷代

上

一酒井左衛門様

十保左京様　左衛門様

上田村御鏡様　西野町奉行

年番名主　東村

神社宮之地　西尾新左衛門　上田治兵衛

加納鑑之丞　平塚彦兵衛

西村

西條伝兵衛　入江安兵衛　下田定平

細川松兵衛　前田忠兵衛　鈴木市之丞

天保十五歳辰正月[illegible]廻年礼相勤候

乍恐奉願上口上書

一 四品麦袍　一領

右者
当社之儀先規野々宮大明神与奉称
四月中之申之日神事之節神職之者
着用仕神事相勤来候処、年久敷相成
右袍破損仕候ニ付乍恐

当御殿様之御例之通麦袍一領
御寄附被成下候ハヽ、神職一流相立
仕合ニ奉存候、御年願之通御聞済
被為成下置候様偏ニ奉願上候、以上

天保十五年辰三月十日　木野村
神職惣代
蒼井権太夫 印
広瀬勘右衛門 印

寺社方大進様
葛山将曹様

右之通願書ニ而願出候処御聞済ニ相成候ニ付
御役所江差出候ニ而御請書差上候様

中川織部正様へ　金百疋
佐竹宮内少輔様へ　金百疋
安部摂津守大進様へ　金弐百疋
蒔田将曹様へ　金百疋
下役人両人江　金二百文
寺社奉行役所

一 御奉行様御登城九ツ時ニ御役済
之上御例年之通年頭御礼御済
済候上ニ御目見江御役
江戸家老ゟ御使者ゟ御返酒
御礼申上候
御奉行様へ之人

泥龍江雖取候右為事緒萬座ノ
九月ヘ急度禁酒ニ而相済ニ付七月十七日
参らせ候一流お免シに己頭人こそ
冥加ニ付しく当日吉書五百文大日
十九日潤ちし候之儀莫大之儀ニ付右吉書五百文ちう
物事ニ付中老ニ而萬遣申ニ頼しれ

持ちし置御渡し被成候所可及申
右拾ノ中ニ事

天保十五歳
辰七月十九日

年行事
甚吉
森治郎
宗太

一 御様者十日ニ至迄御祈禱
御祈禱清メ御札守差上候御寄附
進呈可申候

一 今般御祈禱御祈禱中御日並執行可被仰付事
一 以御祈禱御祈禱料金御伝可被下事

右之通可申上候也

右之通書面之通御願候ニ付御祈禱被仰付
御祈禱被下候様 以上

天保十五歳
辰十一月十六日

[illegible]
[illegible]

去ル卯十月大満水有之、山手畑地崩、家
敷十一月廿八日右段々為諸拝借願書取添
前貫義遠於来候ニ付若者限及迷惑候ニ付
則願拝借奉願候所御聞[illegible]
右[illegible]為[illegible]入置申候以上
卯
御役所

一 [illegible]年[illegible]月
[illegible]拝借[illegible]
[illegible]
[illegible]人[illegible]
一 [illegible]拝借[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

千手堂請取　出郷村へ

一 稗　大俵

一 米　三俵

右者御渡被成候

慥ニ請取申候

辰十二月十日

此拝借所下

年行事

清兵衛

御役人衆

覚

一 稗　五俵

一 米　三俵

瀬兵衛　八右衛門　清兵衛

右者拝借仕候一切無御座候

出郷村

年寄

御役所

辰十二月三日

一 年号改元弘化ニ成候旨被
仰出候間小前末々迄不洩様可相触
者也
辰十二月廿一日
右之通表役所より相触候間
不洩様可相達
一 庄屋[illegible]
右
庄屋年寄中

一 右之通御書面末々迄不洩様
聞届[illegible]
辰十二月十三日
寺社奉行(?)
[illegible]
[illegible]

辰ノ年納經ニ而
　隆之丞
　銀弐分
　〻〻
一 米三束　宮尾又
此銀七匁八分
且銀弐匁六分
合銀七匁四分二厘七毛
下
当寺法楽
柴村一和尚

右之通相改申候
天保拾五辰年
中嶋勝太郎 立会
湯口權之丞 印
橋横孫七 印
依藤伴蔵 印
年行司
浦清郎
新之助

乍恐御訴奉申上候口上書

禁裏御所

一 御用ニ付挑灯　一張

一 非常提札　一枚

右者御用挑灯之儀先年より差出来候処、此度改而調遣し御
座候ニ付、宮中御師職ニ而御座候へ共、宮地京中ニ而
非常之節者被附候
者ニ而、非常之節者提札相附候
御挑灯被成候様、御用之節者此節挑灯相用候

者共之儀ハ、宮中之節御師職仕候、非常之節二ノ丸江参
仕候処、此節当御守御用ニ付候九
用向之節ハ右御用之節ハ御沙汰被為
成候而も此段ハ難有仕合ニ奉存候

弘化二年
巳五月十九日

木野村
願人　与兵衛

寺社御奉行様

年寄　徳兵衛
　　　伊兵衛

乍恐奉願上口上書

一 當村 [illegible] 之 [illegible] 地 [illegible] 之 宮

[illegible] 仕 候 [illegible] 二 而 [illegible] 地 分 家

新 ニ 仕 候 [illegible] 右 [illegible] 宅 [illegible] 無

御 座 [illegible] 仰 [illegible] 被 [illegible] 下 [illegible]

[illegible] 被 [illegible] 難 有 仕 合

奉 存 候 以上

寛延二年

巳四月十四日

木野村

願主 [illegible] 兵衛

庄屋 [illegible] 兵衛

年寄 [illegible]

同 [illegible] 大夫

[illegible] 様

[illegible] 様

差上申一札之事

一 [illegible]

弘化二年
巳二月

新七
九太夫
勝蔵
年行事
猪之助
伴之助

[illegible]
荻山様 貴様

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

覚

一 [illegible]

[illegible]

右[illegible]

一 [illegible]

金[illegible]疋

一 二百疋 [illegible]

一 百疋 [illegible]

一 三百疋 [illegible]

一 二百疋 [illegible]

一 三百疋 [illegible]

一 百疋 [illegible]

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 － 5 6

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches ©Eastman Kodak Company 1977
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White Brown Black

覚

一 村方経(?)捧物分かゝり之勘定取
立之年行司并年寄下野村分
相調候得共不参下錦(?)村分年行司江
詳村一所ニ寄合金子取置遂勘定候
村方入用高十七匁二分 相違無御座候
右之捧物分かゝり之入用

年行司
組頭
御参(?)

右之通相違無之候(?)

覚

一 村中惣社見分ニ付御備様村堂中
食之料(?)当院備之宮(?)金八匁差上
持参仕候処右之御(?)ニ付御寄附相成候(?)
光宗様野々宮様御呂宮様大神宮様御
御院寺奉之御見分被成候ニ付

海難ニ付右者ゟ金八郎岩次郎木野ゟ
芝場迄送り申候以上

弘化弐年
巳八月廿日

年寄
山治郎
岩次郎
金八郎
与治郎

御礼入用

一 吉原安
弐百文
百拾文

一 池尾安
弐百文
百拾文
弐百文

西
下田耕助様
岩本孫兵衛様

東
田中実治良様
中川大助様
荻野様

一 弐百疋　　岩本様

百疋　　三宅様

南鐐　　九鬼様

銀壱両　　中屋惣右衛門

南鐐　　清水様

近清様礼

一 南鐐　　富永源之亮大進様

銀弐匁　　藤山将曹様

香目百匁　　参源様

弘化弐年　　鍛冶源蔵

八月廿二日　　勝源郎

岩本良

一 村方氏神為修補之節被頼
社役并社内之橋本見人遣り之由
御破損ニ付ニ而所願候処御受
早速ニ御聞済被下候而承知仕
難有仕合ニ奉存候以上

判斎御札毎代官様ニ
銀壱匁ツヽ請札仕度奉願
以条滞様ニ為開試候文書入
仙支
寛政宮永大進様
蔭山将曹様

弘化弐年巳九月十二日

年行事

藤治郎

岩太郎

一 愛宕様為御寄進

弐百文　甚助

一 金弐朱　鶴之助

弐百文　伊之助

一 弐百文　金八郎

弐百文　巳之助

一 四百文　兵治郎

弐百文　勝治郎

一 弐百文　岩之助

弐百文　長四郎

一 弐百文　幾治郎

弐百文　徳治郎

一　同町　善右衛門　　上町　金兵衛

一　同町　林右衛門　　上町　忠兵衛

一　同町　源右衛門　　上町　善三郎

一　同町　半右衛門　　上町　元右衛門

一　同町　源三郎　　上町　松之助

一　同町　忠左衛門　　上町　喜之助

一　同町　嘉兵衛　　新町　文之助

一　新町　新吉　　新町　安右衛門

惣高銭九貫二百文

[illegible]

一 二百貫弐拾六了　代神楽料
　惣都合七百弐拾六了
　　　右寄進也
冬居入用

一 御酒壱斗七升　代弐〆七百六了
一 煙草四斤　代四百九拾弐了
一 餅弐拾枚　代六百弐拾了
一 こんにゃく弐枚　代拾六了
一 さこし壱本　代一百廿了

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一　わたほうし　拾本　代百八拾文
一　やきく　百丁　代三百拾文
一　こんにやく　百丁　代百三拾文
一　まし　壱足　代二拾五文
一　[illegible]　三束　代二百文

一　生ゆは　三束　代弐百四拾文
一　わらし　壱石　代弐拾八文
一　黒大豆　壱升　代百三拾文
一　黒ごま　壱石　代弐拾文
一　みかん　拾数　代三拾六文

一 [illegible] 四こ 代弐拾匁
一 [illegible]すおこ 弐本 代百六拾匁
一 たこ 四ツ 代九百弐拾匁
一 板 四枚 代四百六十匁

〆物入用拾貫六百六拾六匁
大工祝儀香月壱匁
香月 六匁 二人
日雇人代拾壱八匁

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

大工弐〆六百八拾文

外ニ壱〆百文ハ御代官様ゟ被成

入方惣〆拾四貫八百拾六文

村方当日休民神様江御酒代

一 統同出ニ壱戸網江以上

受付宮年行司

小林治郎八

岩室与郎

弘化弐年

巳霜月十二日

巳之年網銀之事

一 米三百石　　右人躍(?)　　甚兵衛

此銀七拾貫目　　備後(?)　　大宮村

一 銀弐貫弐百目 口銀　　一 和田(?)

合銀七拾弐貫弐百目

但 壱貫目ニ付 弐分(?)ヅヽ

右請取所如件

小堀権左衛門殿役所

中尾 政之進(?)

湯川 権九郎

積(?) 孫七

佐藤(?) 仲右衛門

右村

庄屋

年寄中

一

一札證文書

此度高殿浦役島之外不足ニ付
山城国中御神領返割減ニ付
御出候ニ付村高書付差出候様被仰書
之候ニ付畏候依而當村之義ハ村高差出候
同郡當村出地之場所ニ付村高

此方ニ而も正地之義ニ付相渡
此段荒地ニ而御用相勤候役高等一切
無御座候以上

城州愛宕郡木野村

弘化弐巳年

年寄重兵衛門 印

村庄屋岩太郎 印

御奉行様

一　禁裏御所崩御ニ付鳴物普請
停止之御触書

此旨被仰出候御付之
大ニ用心入念可申事
右之通村々江流し下知可申也
二月七日　大
　　　　　時　普遊

右之通御殿様ゟ御触村々一統
奉承知候以上
弘化三年
午二月七日
村方年行事
　小佐治良
　宗右衛門

一 御名代御宮清涼様ニ嫁白
御附村方ニ御酒肴料鵝目弐百文
先例之手代ハ合之役年行事罷出候
壱人村方一統之者共ニ申渡し候
右入用之儀ハ三貫五百五拾文相立申候
相迎候様ニ入用共ニ而相立申候
為後日之心得書出し置候事

弘化三歳
午二月吉日
年行事
小佐治
宮右衛門

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

拝領之事

一 猟筒拝借壱挺入壱挺　金八郎
〃　兼治郎
〃　与惣兵
〃　源七郎

〃
〃　八　村方
一 鉄炮壱挺拝借壱挺　忠治郎
一 鉄炮弐合拝借壱挺　村方
一 鉄炮壱合拝借壱挺　村方
〆八挺
壱残村方扣

一 岳藤之説

善七郎
三之助
村之助
武治郎
猪之助

釜之助
城治郎
寅之助
喜治郎
伊之助
岩之助
源治〃

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White Brown Black

一 新調之砌

一 寺中

〃 掃除[illegible]之節

林次郎

銀次郎

斎次郎

忠次郎

嘉助

〃

一 本地寄合掃除之節

一 本地寄合掃除之節

一 新掃之義者先例之通村方分

寺院二割引 付々以上

岩之郎

重左衛門

忠次郎

覚

一 諸白ニ壱斗入樽　弐挺

一 地酒壱斗入樽　壱挺

一 同　弐合　壱挺

一 同　壱合　壱挺

〆 八挺

一 右之通当村之内喜傳屋ニ而差送り割
合組相談致候処、一切不相成之所
今般義理合ニ而其者有之候ニ付
様ニ付下候後組合相談之上如件

弘化三年午二月

城州愛宕郡

木野村

年寄重右衛門

請人　山[illegible]治郎

御用

御掃除

年行事　山[illegible]治郎

宗[illegible]郎

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

覚

差出申書付之事

一 此度今般当地廻り来候ニ付
御触之通相心得候得共
申等一相違之儀無之様急度
被仰付候 役所向ニ而宗門通り

之義可被下候以後御法度書之趣

以 子梅

東大松

明暗寺

役寮

弘化三年

午年 二月廿日

一此度安楽院古来大進様御網戸役、
御出情ニ付　村方ゟ御館入生網
差掛り無之候　且　御役御代官龍野
丹波守様御役御趣ニ付　右四段々
生網差出シ進上仕度
少々延飯料ニ差出シ御来り候ゟ存候ニ
弘化三歳午正月廿日

年寄
小前　佐治兵衛

一此御勢紙ゟ差上候先ニ安如院様被為
拝領御村差障り物語止ニ織り
御演出候ニ差立一統ニ而相勤候白張之
義ニ付進候出張出ニ付而御相合段々
六月廿一日正七ツ時

御代官方

木野村
年寄惣代中

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White Brown Black

一世院山内御葬ニ付鳴物普請停止之日数
之儀ニ付追々ニ而御触有之町中之者共自身
番いたし火之用心等随分念入可申
候旨ニて御触有之候也
上下京共店商売今日より三日之間停止
丙午六月十六日夕方
午刻より
荘野勝之助

一光照寺宮去ル二日薨去ニ付鳴物停止
百ヶ日ニ付其外鳴物停止中ニ付別段不及沙汰
此者共停止中候由ニて御触有之候也
右之通御触有之候得共諸事相触ニ候之
午六月十八日
荘野勝之助

一新清和院　此節御持来月二日より
船職之儀ニ付　御出当茶屋通表船
以御沙汰中候ニ而船番之のや
右之通表船ニ被為御出ニ付船ニ以上
午六月晦日

一堺町通南へ三条通東へ寺町通南へ四条
通東へ伏見海道南へ泉涌寺へ詣入候
来九月廿日より来ル二日之内ニ船ニ而十八日之宗社
新清和院
午七月朔日

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一女院崩御ニ付普請鳴物不停止ニ付触
以紙面申達候、昨日より普請御葬送
迄者停止候、尤右之日限御停止之渡世
之鳴物同日より日数五日、来ル廿三日御葬送
迄停当日より、総文店鳴物御郡迄停止之候
世相ハ今日之内ニ左之通浦中浦々可相触者也
一右之通相触以紙面申渡候

午七月四日

一二条橋中条橋之間浚ニ付、諸船来難
相成候ニ付、浦中浦々ニ可相触者也
一三条大橋之間浚ニ付、諸船来難相成候
船者高瀬船迄之大橋下より南ハ相
渡候、浚船人足ニ而続候船出来兼候
候之間浦中浦々へ可相通達事

一右之通杭船ニ而被仰出候ニ付船ニ而上
　午七月八日
一去ル七日加茂川筋出水ニ而三条大橋落候
　ニ付往来難相成候ニ付下之渡ニ而船渡し申
　候、然ル処之儀追而通路ニ付船渡し
　往来并荷物運送ニ付甚難渋ニ相成候由

牛馬地車之儀ハ当分通り候儀難相成候ニ付
右之渡場ニ而渡し候様〔…〕
右之通杭船ニ而被仰出候ニ付船ニ而上
　午七月十二日
一三条大橋之内損シ候ニ付大橋小之分板
　橋掛渡し相成、今日十二日より人牛馬之分往

来ル節ハ
右之浦中浦方ゟ皆ゝ船元ニもや
右之通於御出入方ゟ船ゟ以之
午七月十二日　年行事
小嶋次郎
岩太郎
萩野橋之助

一 去ル寅御神事之儀ハ前々ゟ停止申ニ付
村方ニ而以来ハ延引ニ而御座候ニ付
来ル卯二月迄ニ先規之通割年之通
之処七不致ニ付船ハ右之者ニ而成
候者ニ御停止申致筆吏ハ御座候
右嶋ニ付内済仕候ニ付
遠ゝ儀ニ付

一先達而ゟ室町中屋敷自身番
白井ニ而相模新清和院御葬送
相済候ニ付今般自分自身番差免
候旨被仰渡候中渡ス此旨申渡ス也
年七月十五日
右之通相觸候ニ付町中不洩様可相觸もの也
森野権之助

南九月廿日御構家之者禅宗寺院ニ而
禅宗寺院ニ而之御沙汰ニ付心得違
之無之様と相心得一統可有之候
御沙汰之趣を以可被相触候
右之段被仰付候ニ付相勤
禅寺之宗門帳ニ付申上候
京都本寺之趣を以申達候
相応之趣を以申渡候
弥相守可申候

免違御申候間御撫様ヶ申候ハヽ人々
違ニ而不届ニ付御咎メ之上混雑ニ付
小仕候ニ付年行事共人無代ニ而人
其段々様御振合ニ付御申渡候御支配
まて罷ニ而有之候ニ付心得違之儀ニ付年行
年行事共ニ而御座候ニ付御聞置被下度候
黒年行事共人無代ニ而罷在候

御座候御礼申上候御代官様ニ付申
御利解仰渡ニ付以後禅定心得違之
儀年行事ニ而ハ可致ニ御様子にて仰付
候ニ付村役人共承知仕候御早速申上
候ニ付以来右様之心得違ニ付村方一同
末々迄ニ右様之心得違無之様ニ而
候ニ付村方一同ニ而御請申上一切相済候ニ付御伺

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

遷宮之件

弘化三歳丙午九月

年行事　渡辺ゟ　□□之介

井口右衛門殿ゟ何梅頼

福願ニ而ニ付大宮遷座を

奉ル　其代一両

神主殿も得勤ニ候

林藤ゟ

渡辺ゟ

遷宮ニ付相頼申候ニ付我等

し□□ニ村之流又大

渡邊清助　田遷宮村御

何ニ言□年行事代

是合右衛門ゟ公儀遣

宮ニ沢ニ

梅沢殿

岩沢ゟ

宮之介

新右衛門

兼沢ゟ

傳之介

与惣兵衛

深沢ゟ

喜之介

蔵之助
甚兵衛
以千
伴之丞

村八
宗右衛門
十代右衛門
勘太夫
少兵衛
出右衛門
勝右衛門
喜右衛門
庄兵衛
為右衛門
源之助

一若御所様御通之節、御支度被仰付候而
御役人衆中ニ被仰渡候、右筆申付
駄賃ニ而御目付衆ニ而御定之御荷物之外
御役人衆拾人、御拾人ニ而拾人分
之四ヶ所之人足御遣之壱六之人足遣候
之儀者、御拾八御役所ニ上
御役所之渡辺様ニ而遣候、右之通遣候

一 御祝儀として様ゟ御樽肴遣ス為御
者勤ニ付左之通被遣之為目録百文
村方ゟ順番ニ
寺三ツ可遣

年行事
浪人
宗十郎

当年御所様左大臣御転任ニ付
御樽代 塩鯛二尾一折 右頂戴之
年行事五人 宗旨参上 御礼申上
御当番拾人 罷出 拾人ハ 廿人代
廿人ハ 船卯ノ刻京入
右之通御返礼ニ付 尊…ニ付 御返礼として
為目録百文 順番ニ御物頭衆
下ニハ 一寸 …

未ノ閏十九日

手行事
惣次郎
岩之丞

維摩会之役被仰出候ニ付
為御届行事之内壱人
させ候 返事 御急申し

七月廿七日

木野村
手行事 仲蔵

中務
大和

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

右ハ去ル天保拾五辰夜九ツ時ニ出火致シ[illegible]

一 村方ニ而出来仕候[illegible]
御願申上候[illegible]御新[illegible]
御座候ニ付御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
村方[illegible]

[illegible]
小[illegible]
[illegible]

弘化四歳未八月　年寄[illegible]

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一

一流連中之事
毎々今宮法之通相守候處
近年猥ニ作物菓子等ニ而不埒之[illegible]
村方ニ流行致、其上遣ひ物ニ及ひ
以後相守可申候、若相背候之人
有之ニおゐてハ見当次第村方宮法之通
過法可被仰付候以後堅ク連中ニ而[illegible]

弘化四年未十月

次八郎（印）

繁治郎（印）

又治郎（印）

勝三郎（印）

小佐治郎（印）

忠三郎（印）

岩三郎（印）

吉（印）

林治郎（印）

与惣治（印）

亀三郎（印）

喜治郎（印）

岩吉（印）

猪三郎（印）

安治郎（印）

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

蔵之助
又平
新五郎
喜之助
源之助
藤之丞
紫之助
楢治郎
秀治郎
房之助
年行事
壽之助
萬治郎

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一 山成村舟岩吉郎ニ岩倉村
下作致候処御嫁ハ当年
引様ニ相成候ニ付妻ニ世話
致候ハヽ別而御祝儀下し置
節ニ候

弘化五申年四月吉日

一 去戌御殿様東山様岩倉村大御山
御殿様ニ當年致候御下し置候ニ
御出被遊其上ニ御代官様より金子文ニ而下され候
ニ茶や立入候得共其家不残候処
村方ニ而持参候金子御代官文ニ而差上
山名平迷村方ニ相談候而山下之茶や

年行事
吉右衛門
浅右衛門

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

然ル処此度御改革被　仰出候ニ付御救
村方之儀ハ拝借金ヲ以右村々之者共難渋
之上持候品ニ付村方ニ而者相成間敷旨
被為御願候ニ付此度格別之御慈悲ヲ以
候事
御内済御返済として拝借之内ヲ以持参候
被仰付候ニ付村方一統有難
相払候事

右之通
書付納
為済候

乍恐口上書

一　当村伝馬之儀者前々ゟ御用相勤来候処
御料私領之差別無之御伝馬村々
業付候ニ付御願申上候ニ付
被為御聞済被下候ハヽ同様之村
出雇之者共ニ至迄御慈悲之御沙汰
御救之為御用相勤候渡世一切
乍恐御願申上候

嘉永元年申五月

戌六月　愛宕神主鈴村
　　　　　年寄　十左衛門

御奉行様

右之村方作略等前文之書付
吟味之上承届印形
　　年行事
　　　　久兵衛
　　　　常信

一札之事

一　今度村方神主一流筆頭之上一札ニ
差別有之事、申子年迄年来
寺年ニ米壱斗宛取来り候ニ付高(?)
かゝり不申候ニ付、神主方へ
当年之分茂、神主方ニ相渡壱斗之米
二付不申候、并当年之米ニ付可申候
例年十月十五日ニ相渡可申候、此外
神主方へ申分無之候、為後日
之月六日印形一札仍而如件

嘉永元年申十二月廿六日

浪花 職三郎 印

請人

御村方

御役人中様

其村年行事

為蔵殿

久三郎殿

御祭禮倹約仕法

一 九月廿日本當ニ而

御棚渡シ之節出役之人江ハ酒肴并ニ吸物出事

ヨリ注連縄底ハ酒 肴 右四品ニ而 吸物 出事

一 五座御供 赤飯 汁 椀弐盃 会ニ而 塩切

一 酒
　盃三つ目より　弐献
一 肴　昆布　いだに
　　　するめ
　　右相組　つまふ

村中へくばる
一 赤飯　三つ目より
　（惣氏子へ茶一つくばる也　是ハ赤飯を出す事（後ハ不行））
神主中請取候へ庭灶席にて遣
一 赤飯　汁　椀弐膳ニ盛切
一 酒　三献
　盃三つ目より
　汁
　椀　法うん

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

Inches
Centimetres
KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White Brown Black

一　肴　四置　いわし
すゝめ
動組　ゑつふ

一　吸物　三ツ　根　こんふ
もちも
まつたけ

御又年　略

一　引肴　御又汁　人京

一　十月廿八日

一　しんそう餅
御村中上下　ひとかさね
ヒトカサネ
壱重

一 九月十六日朝 送膳ニ而 若老ニ而 遣

酒肴 弐品 吸物 肴 鐺銚子 出申候

一 鱠 飯

一 菜(さい) なのこうし

鮓 すいきやうも 茶わん 小皿

一 汁 すまし

一 焼物 かます

一 酒 吸物 豆汁 椀 三献

一 肴七種 内組

さこ いりもの まつたけ ますめ 酒かん

するめ ばうくさ

一 済達縄之人ニハ酒肴出させ可申事

一 盃ハ及之注連之通

一 焼物　かけす

一 汁　すまし

一 香物　但三色　鯛口切

一 酒　吉肴　かき　三献

一 十六日　汁　供米

一 白飯米　壱斗二升

一 小豆　壱升

右者十六日出役之者江長役御出毎人夕飯
酒肴可被下事

一　同日東町与市殿ゟ寄進之　平之丞　五郎兵衛
　　庄兵衛　弐人ニ而酒肴出之返
　　　壱人ニ而手引料
一　[illegible]酒
一　あま酒

一　御本膳
　　菜組
　　　ざこに
　　　いも
　　　すりかわ
　　　なめ
　　　すいもの
一　十九日御供もち弐升出役人神主弐役
　若衆役人　三人　注連縄　弐人　同下
　弐人　一統之人足弐人ニ而右役可致候ニ付

所供せしの人〻
一 汁かけ飯
一 酒
一 肴三重 〆斗
右之通可致事

同日表迎一統、
一 朝飯
一 汁 味噌
一 煮物 かはす
一 村のまへし

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

一 酒
盃　汁椀　弐献

一 肴 大重　名斗
脇供むけ上ゟ上迄

一 赤飯(強)
汁椀 弐重 合ニ而盛切

一 酒
盃 三方目好き　三献

一 肴 三重　ざこ いも ぼうな
弐組

一 村中一統へ 赤飯三方目好き差遣し
是ニて遣 職人

一 同四ツ時本町ニ而

一 赤飯（強） 汁 焼ニ而 盛切

但シ壱人ニ壱ツヽ

せうちう飯

一 汁かけ飯

一 諸白 酒

一 手酒

一 肴三重 ざこ いも

煮組 まめ

四ツ時

一 飯 朝切

一 酒 三献

盃 三方向き

一 香の物　壱組

ざこ

すゞめ

いしし

すいき

こんにやく

一 酒　方〻ゟ酒肴参りけりニ而御座候

一 柿　無所望ニ而よろし

一 夕飯　朝ほとり

一 酒　壱汁　椀　一菜

一 香の物　壱組

ざこ

いしし

すゞめ

まつめ

さんすい八鉢

盃つき候へ
一 酒 御中
一 かます 杉板
右之通可申候事
一 右朝之膳部男女老若共右之通可申候
右之膳之酒肴是まてにて遊ハし可申事

一 朝飯
一 焼物 かます
一 汁 味噌
一 なます 大根
一 酒肴 無之候事

一 五汁廿汁飯

一 吸物　汁

一 酒　三献

盃三月かき

一 肴 置　はんぞう

いい

ごいげし

吉組　すいき

一 正ノ御迎膳肴出し

一 朝飯

一 吸物　かます

一 汁　味噌

一 みその　すゞめ　こんぶ　かつは

一 酒　壱升[illegible]　三献

一 肴[illegible]　ざこ　いりこ　[illegible]

御組　ごばう　こんにやく　すかめ　ぜんまい　ずいき

大

将八余寿尾ニ而
本酒かくれも
一 赤飯 强 押ニ而 かき 壱膳
一 十月菱ノ子ニ而盛込煮込
一 ぜんざい餅

一 おゐの ばんたら いも いんげん豆
一 吸物 さし
一 焼物 かつお 付
一 酒 豆ニ而 かき 三献

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一 香の物　ばうふう
　　　　　こいど
　古漬　　みしふ
　　　　　ちんふやく
　　　　　ざくし

一 七月[illegible]

一 九月十二日

一 夕飯

一 汁　味噌

一 焼物　かます

一 小もの　治貝
　　　　　小いも
　　　　　豆腐

一 酒　三献
[illegible]　かさハ　わらん
汁　椀　[illegible]
一 肴 壷
[illegible]　さこ　こいも　ごぼう　ふ　こんにやく

[illegible]
一 飯
一 膾　[illegible]　かつます
一 汁　すまし
一 小中の　ふいも　ほうれんそう　[illegible]

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一 酒　三献
壱升目切

一 肴六菜　ざこ　ごま
まつたけ　ずいき
壱組　こいし　こんにやく

日延し無之

一 酒　切り

一 肴二菜　ぼうだら
壱組　豆腐　こんにやく

一 吸物

一 ふたの　酒貝[?]　ごぼう[?]　こんにゃく[?]

一 焼物　かます[?]

一 汁　[illegible]

一 酒　前かり[?]

一 香　いりいり[?]

十四日晩迄不足[?]

一 飯

一 汁　味噌

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一 焼物　かます

一 吸もの　こいし
ぜんげ豆
はしたて

一 酒　三献

盃三ツ目かす

一 香の物　そうふ
いし

一 菜盛　ざいしん
あんかやく
すゝめ

座間上ヨリ出ス

一 赤飯

一 なますゝし

口汀

一 豆飯

一 ふきの

一 焼物

一 汁

こいも

汐貝

とうふ

かうやうす

味噌

一 酒

蕪

一 香の物

ござし

こいも

菜漬

せうが

さゝげ

とうふ

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一夕

一朝飯

一あへもの　ひじき　いも　貝

一志る　味噌

一焼物　鮮

一酒　三献

定肴　口取

ざこ
いも
するめ
ごぼう
こんにやく

一香の物

壱皿

右同

一 並殺　　浅貝

一 小皿の　　いわし

一 汁　　味噌

一 吸物　　如斗

一 酒　　三献
　盃　三ツ目　かけ

一 肴　　前ノ通り

一 右之料理東役人江相可済事

一 村役中惣代諸郷社ニ罷出候人数割合之儀
　壱貫文ニ出候処村方ニ而費渡

右之日者遊於御村方一統承知し
上ニ而相定メ候事

嘉永元申年八月

年行事 亀次郎
同 九之丈

木野愛宕神社所蔵史料
箱4－56

一八月廿三日大風雨ニ付
田畑作物大ニ痛ミ申候 [illegible]
[illegible]
一同廿三日大風雨ニ而 [illegible]
[illegible]
御宮 [illegible]
大坂 [illegible]
[illegible]
書留

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 － 5 6

申八月十四日

庄屋

木野村
組頭中

候、早速大郡理兵衛殿江請取候様可被成候
村方ニ而廻状可被成候、此段申達候、以上
新屋出清右衛門様
書状上候

一若御飛脚之儀ハ正月廿八日中継ニて御持参可被成候
当日常ニ人足八人、八人ハ廿二六人出之側ニ遣
候、六ハ早速御遣可被成候、仕候御渡候
御旅宿へ御着之砌、前々之通御渡
仕候御渡ニ候、御勘定可被成候

正月廿八日

年行事
組頭
九右衛門

木野愛宕神社所蔵史料
箱４－５６

右忠四郎上ヶ候書

一 此度有来り候小家破損仕候ニ付、西横ニ
新ニ高サ七尺八寸巾二尺長サ四間ニ彫物
取付仕候、右諸家様御寄進之儀ハ一切
宗旨ハ法花宗本所信遠寺〔illegible〕御沙
汰
此度御山林ニ而忠七郎上ヶ候

嘉永酉年
二月

高野村
権之丞
備後
[illegible]
[illegible]

三郎大夫様
藤山中務様
内匠
杢様

一 蒙御神道許状候ニ付而、並ニ[illegible]月九日ニ
先例之通
一 鍋 御通
御取上仕合候之[illegible]願段[illegible]誠[illegible]年
紙ニ先例ニ
寛政二[illegible]年[illegible]月九日迄

右急度[illegible]書
一 今般
吉田殿御内 内[illegible]之[illegible] 依而[illegible]
[illegible]御[illegible]御[illegible]之[illegible] [illegible]
[illegible]守[illegible]御[illegible]之[illegible] [illegible]
嘉永元申年九月
[illegible] [illegible]
三郎大夫様
藤山中務少様
内藤壹様

一 愛宕様ニ石灰新田村ゟ之寄附仕候ニ付
此明神ゟ吉田村方へ差出候中山名以来
村方ニ神之此明神

乍恐書付ヲ以申上書

私共居村之内
一 此度稲荷社之外ニ相模仕付申上候
其外ニ南ニ壱間ニ東西七尺ニ茅屋根建
宮中取置ニ付権之宮社安置仕度
相叶候様ニ被仰付被下置候様奉願上候
以上

嘉永二酉年閏六月

名主 地主 又
組頭 吉兵衛
　　 与兵衛

三之宮吉和沢様
慶山半都様

木野愛宕神社所蔵史料
箱 4 ― 5 6

四名主林

木野愛宕神社所蔵史料
箱４－５６

村方中

木野愛宕神社所蔵史料

箱 4 － 5 6